

令和7年度小学校教科担任制実施報告書(中学年型(第4学年))

学校名
竹原市立竹原西小学校

1 学校の概要

(1) 学校の学級数

	通常学級							特別支援学級	合計
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	計		
学級数	1	2	1	2	1	1	8	2	10

2 加配教員が専科指導を行う教科及び週当たりの担当授業時数

(1) 第4学年の指定教科等

指導教科等名	指導学年	指導学級数	1学級当たり時数(週)	授業時数(週)	兼務校での実施
算数	4	2	5	10	
理科	4	2	3	6	
外国語活動	4	2	1	2	

授業時数 計 18 (a)

(2) その他

指導教科等名	指導学年	指導学級数	1学級当たり時数(週)	授業時数(週)	兼務校での実施
外国語活動	3	1	1	1	

授業時数 計 1 (b)

授業時数 合計 19 (a)+(b)

3 教科担任制推進教員を配置した授業計画



教科等	国語	書写	社会	算数	理科	音楽	図工	体育	道徳	外国語活動	総合	特別活動
週当たり標準授業時数	7		2.6	5	3	1.7	1.7	3	1	1	2	1
4年 1組 (担任: A)	A	A	B	推進	推進	専科	A	A	A	推進	A	A
4年 2組 (担任: B)	B	B	B	推進	推進	専科	A	B	B	推進	B	B
3年 1組 (担任: C)	C	専科	C	C	C	専科	専科	C	C	推進	C	C

4 第4学年担任が指導を行う教科等及び週当たり授業時数

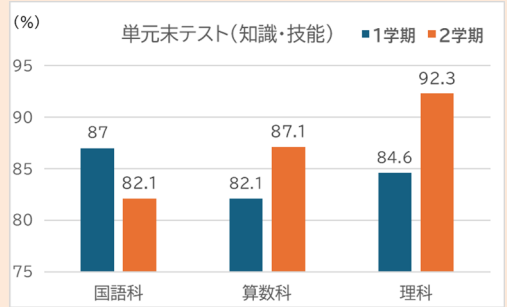
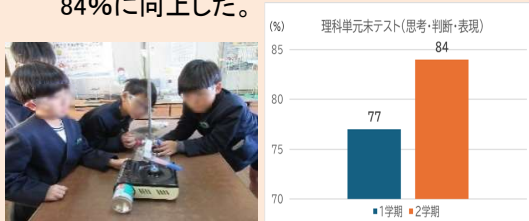
学年・学級	児童数(人)	担任	担任する学級以外の授業時数(週当たり)				担任する学級の授業時数 (d)	授業時数の合計 (c)+(d)
			指導学年・学級	教科等名	時数	時数計(c)		
4-1	19	A	4-2	図工	1.7	1.7	15.7	17.4
4-2	20	B	4-1	社会	2.6	2.6	16.6	19.2

## 5 成果と課題

(①授業の質の向上、②多面的な児童理解、③小・中学校の円滑な接続、④教師の負担軽減、⑤その他)

〈効果のあった取組〉	
①	<p>・算数科では、前学年までの学習内容を、第4学年の学習内容と関連付けて指導したり、復習問題を授業や家庭学習で取り組ませたりして、1年間、継続して学び直しの機会をもつようにした。また、学校全体でチャレンジタイム(帯時間)を設定し、たし算やひき算、かけ算の練習を毎日繰り返し実施した。これらの取り組みから、児童の計算力の向上が見られた。</p>  <p>・理科では、少人数による学習活動を仕組み、問題の予想や実験の計画、その見直しなどをさせることで、何を調べるための実験か、活動の目的を児童が明確にもてるようにした。</p> 
②	<p>・それぞれの担当教科での児童の様子を交流し、児童理解が深まった。交流したことは、児童の班決めや席決めなど日々の学級経営に生かすようにした。</p>
③	<p>・いろいろな教師の授業を受けるということが日常になっている。</p>
④	<p>・指導教科が少なくなったため、教材研究に深く取り組むことができた。また、宿題作成や採点間違い直しなどを教科担当で分担し、担任の負担軽減につながっている。</p> <p>・空き時間に授業準備や分掌業務を行うことができた。</p>

〈課題〉	
①	<p>・計算力など基礎学力が以前よりも向上しており、第4学年の学習内容もスムーズに理解できるようになってきた。児童アンケートで、83.8%の児童が「算数の勉強は好きです。」と肯定的評価をした。しかし、16.2%の児童は、算数の勉強に難しさを感じ、好きではないと感じている実態がある。</p>
②	<p>・分からない問題について自主的に質問に来る児童や間違いを直す児童が増えている一方で、宿題や間違い直しの習慣がついていない児童もいる。</p>
④	<p>・教科担任では、朝の会や帰りの会、5分休憩などの隙間時間が使えないので、算数の間違い直しなどが徹底できなかった。</p>

〈成果〉																			
①	<p>・2学期単元末テスト(知識・技能)で、個人正答率80%以上の児童は国語科86.8%、算数科82.1%、理科92.3%で、目標の80%以上を超えることができた。</p>  <table border="1"> <caption>単元末テスト(知識・技能)</caption> <thead> <tr> <th>教科</th> <th>1学期 (%)</th> <th>2学期 (%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>国語科</td> <td>87</td> <td>82.1</td> </tr> <tr> <td>算数科</td> <td>82.1</td> <td>87.1</td> </tr> <tr> <td>理科</td> <td>84.6</td> <td>92.3</td> </tr> </tbody> </table> <p>・2学期単元末テスト理科(思考・判断・表現)では、平均正答率が1学期の77%から84%に向上した。</p>  <table border="1"> <caption>理科単元末テスト(思考・判断・表現)</caption> <thead> <tr> <th>学期</th> <th>正答率 (%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1学期</td> <td>77</td> </tr> <tr> <td>2学期</td> <td>84</td> </tr> </tbody> </table> <p>・児童アンケートで、92%の児童が「国語・算数・理科の授業はよくわかる。」と肯定的評価をした。</p>	教科	1学期 (%)	2学期 (%)	国語科	87	82.1	算数科	82.1	87.1	理科	84.6	92.3	学期	正答率 (%)	1学期	77	2学期	84
教科	1学期 (%)	2学期 (%)																	
国語科	87	82.1																	
算数科	82.1	87.1																	
理科	84.6	92.3																	
学期	正答率 (%)																		
1学期	77																		
2学期	84																		
②	<p>・複数の視点での児童理解を学級指導や保護者連携などに生かすことができ、児童は、落ち着いて学校生活を送ることができている。</p> <p>・第4学年問題行動件数 R6:0件 R7:1件</p>																		
③	<p>・児童アンケートで94.6%の児童が「中学校での教科担任制に対して不安がなくなった。」と肯定的回答をした。</p>																		
④	<p>・宿題が提出されたその日にうちに返却することができ、間違いが多かった問題に対してすぐに授業で補充することができた。</p> <p>・指導者アンケートで「指導教科数の減少により、教材研究の時間の確保等、業務改善につながっている。」と100%の肯定的回答を得た。</p>																		

〈対策〉	
①	<p>・引き続き、児童の協働的な学びを生かし、どの児童も分かったと思える授業づくりを進めていく。</p> <p>・チャレンジタイムの取組や、宿題の間違い直しなどの取組により、個人内での伸びがみられているので、その伸びをしっかりほめて、苦手意識を払拭するようにする。</p>
②	<p>・担任と連携しながら、児童の特性やつまづきに合わせた課題を出したり、個別指導をしたり、保護者連携をしたりしていく。</p>
④	<p>・以前よりも間違いの数が減ってきたので、担当の授業の中で、間違い直しの時間を取って指導し、児童が理解できるようにしていく。</p>